

えんぼとたんぼの始発駅 里山ビオトープ二俣瀬	会 報 第 51 号	2005年10月23日 里山ビオトープ二俣瀬をつくる会 編集責任者：西原 一誠
---------------------------	---	---

1. 活動報告（事務局 記）

- 10月2日（日）当日の作業は、ビオトープと駐車場の草刈りおよびため池のアサザの抜き取りを行いました。会員15名の参加でした。お疲れ様でした。
- 10月7日（金）田んぼの猪被害による稲倒れ修正と蓮華の種まき（林弘、原田マ）
- 10月12日（水）父（とと）滝周辺整理、東屋北側土手草刈り（吉富匡、原田マ、原田賢）
- 10月14日（金）観察隊行事のための昭和山遊ロードの整備と頂上付近のロープワーク前準備の作業をしました。（吉富匡、西原、原田マ）
- 10月15日（土）「稲刈り」が完了しました。会員25名、里山自然観察隊および保護者9名、二俣瀬子ども会及び保護者20名、公民館小学校関係5名合計59名の参画でした。稲刈りも馴れたものではぜかけを含め約1時間で完了しました。後は収穫祭12月3日（土）で餅つきが楽しみです。
- 10月15日（土）午後の里山自然観察隊は森の探検をしました。隊員18名、保護者13名、会員9名で昭和山にて、木の実（ドングリも含む）やキノコを観察し、頂上付近では綱渡りやブランコなどのロープワークをしました。アケビやヤマボウシやエビヅル（ヤマブドウの仲間）などの木の実を食べましたが、皆さん美味しいと喜んでいました。

2. 今後の予定（事務局 記）

◎ 見学者

- 11月26日 宇部健康福祉センター主催、厚東川、厚狭川、有帆川の環境を考える会御一行
（説明ご案内会員募集中）

◎ 行事

- 11月6日（第一日曜日）の活動 作業（ソバ刈取りほか）
- 11月12日（第二土曜日）の活動 午前：作業（会員の勉強会、看板製作準備）
（第三土曜日は文化祭のため変更） 午後：里山自然観察隊（里山の暮らし〔しめ縄づくり、わら細工、竹とんぼ作り〕）、

3. ビオトープ関連（ビオトープ周辺の植物） 美濃和 信孝 エビヅルとアオツヅラフジ

10月の里山自然観察隊では、子供たちと木の実、キノコを探し、食べられる木の実はその場で食べました。その中でなんといっても最高の秋のグルメだったのは、ヤマブドウことエビヅルです。エビヅルは、本州、四国、九州に分布し、山野にふつうに見られる落葉つる性の木本です。よく似たヤマブドウより葉は小さく、ふつう3つ〜5つに裂けます。そして、エビヅルの葉の裏面には淡い赤褐色の綿毛が密生しているところがヤマブドウとは異なります。ヤマブドウは、本来はブナ林の植物で、山口県内では錦町(2ヶ所)、本郷村のみに知られる絶滅危惧ⅠA類の植物ですから宇部には

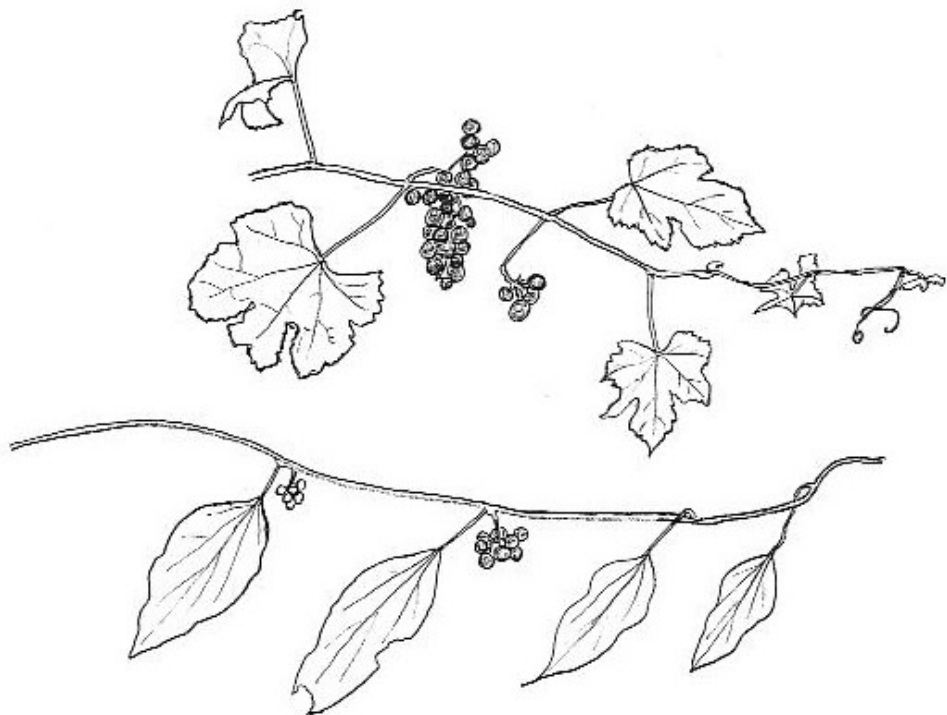
分布していません。

古来から食用にされてきたヤマブドウやエビヅル等の日本原産のブドウ類は、ひっくるめてエビヅルやエビカズラという名前と呼ばれていたそうです。「エビ」とはそもそもブドウの古名で、エビ色とはこの果汁の色、灰色がかった赤紫色のことだそうです。そしてエビ茶色とは、そのエビ色の茶がかった色、つまり黒みを帯びた赤茶色のことをいうそうです。エビ＝海老ではないのだ、と今回調べて初めて知りました。

エビヅルに葉が似ているつる植物にノブドウがあります。形は似ていますが、ノブドウは葉裏には毛がなく、脈腋（みゃくえき）のみに毛があります。ノブドウは、白、青、紫などさまざまな色の実を付けるので、実を見れば区別は容易です。このさまざまな色は、虫こぶによるもので、中に虫が入っているので食べられません。

実を見るとエビヅルにそっくりなつる植物がアオツヅラフジです。果実はその名のとおり初め青く、熟すと藍黒色になって白粉をかぶり、エビヅルと瓜二つになります。

しかし、この植物は有毒とされているので要注意です。葉はブドウ類とは全く異なり、どちらかというとヤマノイモに似た感じの質の薄い葉です。全草にアルカロイド類を含むため、多量に食すると呼吸中枢や心臓等の麻痺を起こすといえます。私は試しに実1個を試食しましたが、エビヅルとは違って全く無味で、中から大きめの種子1個が出てきました。ですから、万が一まちがって食べてもヤマブドウと違うことはすぐわかるので誤食の危険はないと思います。余談ですが、この種子はダンゴムシが丸まったようなかたちをしていてたいへんユニークです。この実を日干しにするとむくみのある腎臓病の利尿薬に、根茎を乾燥したものは木防己（もくぼうい）という生薬になるそうです。昔の人は毒のある植物をも薬にしまいます。長い時間をかけて創り出されたすばらしい知恵だと思います。



エビヅル (ブドウ科)

アオツヅラフジ (ツヅラフジ科)

4. ビオトープ関連 (会員の声) (岡村 知法 記)

お世話様になります。

この春より入会させていただきました、岡村知法と申します。皆さん方の熱意と志の高さにいつも感服しています。小さい頃からいつも自然がある中におりましたし、農家でもあります。しかし、あるというだけであまりに生態系なりいろんなことが見えていない、見ていないことを改めて痛感しています。そして、学ぶにしてもあまりに裾野が広くて・・・。

過日の稲刈りは、皆様お疲れでございました。30年くらい前の我が家の百姓を思い出しました。はぜかけすることで稲藁の中の栄養を米粒に詰めるのだ、と祖父から聞かされました。乾燥させるのが主でしょうが。脱穀した後、稲藁を積み上げた“としゃく(稲積)”なるものも組んでいましたね～。組みあがったとしゃくの途中を引き抜いて遊んで、叱られました。腐敗させ発酵を促す為のものだったのか、なぜか春に解体したときに暖かいはずの藁の中に虫がいなかったのを不思議に思ったものです。

さて、むし達は冬籠りの準備にかかるころ、渡りもそろそろ。葉を落とし、寒山となり。静寂の季節がやってきます。来春、かれらの活動が観えるよう、かれらのいとなみを感喜(観喜)出来るよう、こちらも静かな季節に、かれらについて知ろうと思っています。かえる好きのわたしとしては、まずかえるからでしょうか。

寒暖の差の大きい頃、みなさまご自愛なされますよう。

今回は 谷口浩明 会員にリレーします。宜しく

5. 来訪者の声 (東屋のノートより一部抜粋)

ー9月25日 メダカがたくさんいてびっくりしました。炭がいたる所においてあって、水をきれいにする工夫がしてあるんだなと感心しました。今度来るときはお弁当と、着替え(子どもに水に触れて遊んでぬれてもいいように)を持てきたいです。 たかひろ(5歳)の父

ー10月9日 初めて来ました。始め昭和山の方から登山しました。電波塔より道が無くなり引き返しました。しだのトンネルは滑りやすく大変でした。里山遊び(歩き)とは、大変だものと思ったら、こちらを回ると打って変わり歩き易く風景の美しいところでした。風景を見る余裕が出ると秋の大快晴小登山の後のさわやかな風の中、水車の回る音、虫の音、鳥の声ほんの少しになったツクツクホウシの音が聞こえてきました。毎日パソコンに向かい、時間に追われ、人に追われ、クレームやミスを恐れ 神経を使い果たす世界とは全く別の世界です。いつもくじけていますがまた火曜から頑張らねば。いい休日になりました。

6. 会よりの連絡事項

(1) 新入会員のお知らせ

岡谷政宏さん 周南市住崎町8-23

藤井さん 藤井義晴会員の奥様です

(2) この冬の活動について

昨年は散策橋の修復を主に行ないましたが、大方の部分は済みました。一部は取り除き部分も残っています。

ビオトープを創設してはや5年がたちました。東屋のノートにもありましたように、通路の看板の表示が悪く、また表示看板そのものが破損して、見えにくくなってきました。台風で破損した看板もあります。

そこで次回活動日から看板板の取替えの準備をしたいと思います。板、ペンキ、刷毛、筆等を買って案内板を作り、杭〔ヒノキが良い〕の製作をこの冬の活動の一部に取り入れたいと思います。

7. 編集後記

2000年の9月に会が発足して5年が経過し、2001年5月に会報1号を発行したが、5年目に節目の50号が発行できた。これも会員の協力があればこそで、ここにお礼を申し上げさせて頂きます。本当のところ、会が出来た頃はこの先どうなるのだろうと少し不安であったが、常時参加される人もいて、活動が継続できているということは、この先もゆっくりだが、一步一步前に進んでいこうと今は安心しています。継続は力なりといいますが、継続には会員の参加が前提であって、年々会員の平均年齢も上がりますが、少し若い人にも会員になってもらって、少しずつ会員の交代も図っていかないと、先細りになりますので、継続に当たっては、会員の勧誘も必要だと思います。ビオトープではこんなことをしているよと、知り合いの方に声を掛けて頂き、ちょっと作業に顔を出してみないと誘って頂きたい。里山自然観察隊の保護者の方にも、子供さんが大きくなられて、手がすいたなら、是非会員になって欲しいものである。ところで、会報であるが、最初は写真も添付していたが、印刷の都合で、写真はインターネットのホームページへお願いした経緯があって、ほとんど文章だけとなってしまったが、イラストなど描いて頂ければ、積極的に掲載したいと思いますので、どうか会員の皆様、記事と共にご投稿下さい。

(西原 一誠 記)